

○西洋列国史略
文化五年戊辰の秋
八月賊船肥前長
崎の港へ入る地
形を度し津路
を捜し根柢を
て去る或曰此海
賊諸尼利連人
あり諸尼利連
も魯西亜の内
蘭兄弟の国也
有りて魯西亜
の賊徒の野馬と
せし

気の筋ふて、段々指重候趣、夫へ達事等も相
濟候間、病死披露有之候。二十七日葬送有之候。尤
切腹ふて御断被申上候。後、大意の趣、○旗合の節、
紅毛人兩人奪ひ被取候を、其終渡置候。使者一
且、御役所へ引取候。其最弱の取扱仕候。日本
の耻辱は相成、畢竟家來の臆病と申内、主人常
常申付やう不行届。今更公義の御威光を極
候段、申訳無之。一ヶ条○十五日の夜、端船ふて異
国人、漆内へ乗入候。其、案外ふて、尤陸手の備而
已、頭着致し、沖より理不尽、右様の仕業可有之
哉。心付不申候。肥前、御番所より、万一方の
有之候。防留可申。其、別段指圖も不相如候段。
油断の至二ヶ条○十五日ハ、暗夜ふて、右異国人
端船三艘、兩御番所罷通候。其、内實ハ、肥前の番衆
見分致居候へ共、畢竟詰人の人数少く候間、逃
候事も不相調候。故、見流し罷在候。後、今二時計も

紅毛船不奈候と心得、内ふて、国許へ引取、兩
御番所、小て、人数漸百四五十人も相詰候仕合。故、
所詮三艘の異船を、防留候事不相成候。故、態と見
遁候。殿跡にて相頭れ、御番所の後、無御定法の
人数も有之。處、右舩ハ、鍋島家の不埒と申内、奉行
として、内々見聞し、役人をも付置、内々等も可致
處、無其後、御番所の空、虚々及候。後、肥前乃無調
法とハ、乍申、第一奉行たる者、不行届。故、肝要の圖
をばづ候段、今更不念の至也。是三ヶ条○異国
人よ、法外の横文字指出、不届至極。其、自焼討の
手當、肥前、筑後へ申渡候。處、人数到着無之。故、不
是非、紅毛人よ、穩成取計らひを仕願。無、薪水
米、茶等相與へ、紅毛人よ、も牛二足、茶ふた等
相贈候。由、彼方よ、焼討し不仕候様、取鎮候。後、
畢竟、人数不足。故、和平の取扱仕候段、不調法無據
次第候。是、四ヶ条○大村上総、及後、今二時計も

鍋島家逼塞

早く到着仕候。申談候て、役所の人数、井地下役人共、又、諫早藩、人数等を取合候。焼討も可仕候。肥前、人数間、合不申。且、上総、到着遅候。無、候へ共、程、延候。内、異、国、船、出、帆、仕、候、候。念、至、極、奉、存、候。依、之、向、後、長、崎、奉、行、之、候。大、身、の、者、被、仰、付、度、候。右、五、ヶ、条、不、調、法、の、取、扱、淺、智、ふ、万、端、不、行、届、候。共、今、更、後、悔、及、候。一、身、の、耻、辱、ハ、指、置、此、場、至、候。ハ、天、下、の、御、辱、を、異、国、へ、頭、候、条、不、調、法、の、仕、合、御、座、候。爲、御、断、切、腹、仕、候。段、御、披露、給、度、候。八、月、十、八、日、松、平、圖、書、頭、〇、右、〇、付、大、騷、動、同、土、月、十、日、鍋、島、甲、斐、守、直、温、を、牧、野、備、前、守、宅、へ、被、召、松、平、肥、前、守、當、秋、詰、厄、利、亞、船、長、崎、渡、來、の、節、湊、内、一、端、船、乗、入、御、番、所、前、往、通、致、せ、し、時、家、來、共、取、鎮、方、不、行、届、万、事、油、断、の、形、勢、其、上、當、番、の、處、人、數、手、當、も、疎、きの、様、子、不、束、の、至、依、爲、不、調、法、逼、塞、被、仰、付、之、翌、文、化、六、年、二

月二十一日
逼塞 御免

南部津輕
兩家永く
蝦夷守衛

文化五年十二月十八日、南部大膳大夫事ハ、西蝦夷地、一圓の警固、其方并、津輕越中守、相手へ永く被、仰、付、領、知、二十万石、直、被、下、且、又、侍、從、被、仰、付、〇、津輕越中守事、東蝦夷地、一圓の警固、其方并、南部大膳大夫、相手へ永く被、仰、付、領、知、十、万、石、直、被、下、四、品、被、仰、付、旨、被、仰、渡、

鮮 同十九日、照坂中勢大輔、朝來聘の砌、對州へ副使

として、依被遣金子一万五千兩并借被_二仰付_一。

○文化六年正月十六日、日向国那阿郡、福島へ清国、

浙江省寧船、兼組二十七人漂流、福島ハ、秋月山城守領分

○文化七年二月二十六日、松平越中守、松平金之助

浦賀寺江府
近海御臺場
御備

名代保科能登守、を被召、異国船漂流手當の爲、相

州、浦賀、安房上総浦へ大筒臺場所取立、其方并、松

平金之助引受被_二仰付_一、追てハ、右浦、に、取寄置所

小て、領分の内引替可被_二下候_一、家來等指置御備厚

可申付旨、御老中御列座被_二仰渡有_一之、此時、右浦に、
之、分御用地は被召上、他所より替地、
被_二下_一、被浦、にも、兩家へ被_二下_一之候由也。

朝鮮聘使
對馬追來
の始

○文化八年四月廿二日、朝鮮聘使、對州追來、書翰并、

貢獻の方物を、宗對馬守が邸中より捧げ、聘礼終

て、同年七月十八日、今度朝鮮信使於對州、聘礼相

濟候より、月並出仕の面、御祝儀被_二申上_一、是聘使

對州追來の始也。○朝鮮信使來聘の初、慶長五

朝鮮信使
來聘年表

年、凶徒伏誅御一統に歸せし後、

東照官朝鮮と和解の事、可計の旨、宗對馬守茂智

へ被仰合、かむ、義智粉骨して、彼国と和後の事を計らひぬ、太閤朝鮮を督、慶長三年、太閤他界有らば、東照官の御計らひ、成て、朝鮮行役の兵を引奉らせ給ひ、兩陣物別れ、成て、和の汰み及ばざり、也、か、朝鮮正使、通政大夫、昌祐吉、副使、通訓大夫、慶運、從事、通訓大夫、好寛、對州、到着、と、智三使を率て、京師、上、使、依、を、駿府、馳、此、由、を、言、上、御、旨、を、伺、ふ、処、先、江、戸、へ、僕、て、参、る、べき、の、仰、よ、と、智三使を伴ひ、江、戸、見、朝鮮王書翰、及、ひ、方、物、を、獻、む、此、日、三、使、を、御、饗、應、十一日、御、暇、被、下、の、時、御、返、翰、を、授、け、ら、る、又、銀、等、を、賜、る、同、二十日、駿府、に、参、る、東、照、官、へ、御、目、見、方、物、を、獻、む、御、饗、應、も、御、在、城、御、普、請、み、付、本、田、正、純、が、宅、ふ、て、饗、せ、ら、る、此、後、も、元、和、三、年、初

宗家世、
掌朝鮮之

て、天下一統の賀使、台、唐、御、上、洛、伏、見、城、か、て、修、聘、對、馬、守、茂、成、が、時、寛、永、元、年、十、二、月、大、猷、院、様、御、世、継、の、賀、使、同、十、九、年、七、月、嚴、有、院、様、御、誕、生、の、賀、使、明、曆、元、年、同、御、所、御、世、継、の、賀、使、對、馬、守、茂、真、が、時、賀、使、對、馬、守、茂、方、が、時、正、徳、元、年、十、月、文、昭、院、様、御、世、継、の、賀、使、對、馬、守、茂、誠、が、時、享、保、四、年、十、月、有、徳、院、様、御、世、継、の、賀、使、對、馬、守、茂、如、が、時、寛、延、元、年、六、月、惇、信、院、様、御、世、継、の、賀、使、對、馬、守、茂、幡、が、時、明、和、元、年、六、月、後、明、院、様、御、世、継、の、賀、使、對、馬、守、茂、功、が、時、天、明、八、年、將、軍、家、御、代、に、至、り、給、ふ、よ、寄、て、朝鮮王よ、と、倍、使、來、聘、の、意、有、と、雖、暫、其、期、を、延、ら、る、の、奇、仰、を、蒙、り、か、む、や、が、て、彼、国、礼、曹、参、判、の、許、し、其、事、を、達、せ、り、○、抑、宗、家、世、に、朝鮮の事を執事ハ、晨祖、惟、宗、判、官、知、宗、初、て、對、州、を、開、き、し、よ、と、九、代、の、孫、宗、讚、岐、守、貞、盛、の、時、嘉、吉

對州追朝鮮
來聘始定

元年朝鮮と和親し。交易を通む。此時朝鮮と約を
よ。交易の船負五十艘を以て限る。又諸国
より朝鮮へ遣る所の船必對州に寄て。宋家の手
形を請ひ。是を以て驗し。必對州に寄て。宋家の手
交易の事を掌らむ。後世に漸く船員を以て減
じ。近年に至ては。交易大に衰微し。其国殆ど交易を
とし。文化十四年二月二十八日。朝鮮国と交易差
滞。數年來御手當も。被下也。其方事代。朝鮮
鮮国の御用相勤る。よ。被下也。其方事代。朝鮮
當として。地方二万石被下。場所の。以て。御手
べ。朝鮮の仰を蒙る。○文化元年六月。御代替。よ
付。朝鮮信使來聘の事。思召。旨あり。唯今追相延
ら。れぬ。信使當。地へ相越。不及。於對。聘。禮。可。相
整。様。追。被。仰。遣。一。処。於。彼。国。も。承。引。せ。し。め。近。年
の内。對。州。追。信。使。來。聘。の。事。有。べ。し。と。被。仰。出。同
四年三月二十九日。小笠原伊豫守忠徳。後。大。改。大。侍

從。被。任。朝鮮人來聘の節。對州へ爲御使被遣。脇
坂中勢大輔。安董。右。同。断。り。付。伊豫守。差。添。兼。相
勤。へ。きの。仰。を。蒙。る。同。五。年。七。月。六。日。林。大。学。頭。衡
儒。者。古。賀。弥。助。掛。表。御。右。筆。大。塚。傳。藏。信。之。男。谷。彦
四。郎。思。考。其。事。よ。被。對。州。へ。被。遣。の。由。を。被。仰。渡
其。後。大。目。付。井。上。美。濃。守。御。目。付。遠。山。左。衛。門。尉。景
晋。佐。野。肥。後。守。庸。負。等。も。彼。地。に。至。る。べ。し。と。の。仰
を。蒙。る。既。に。聘。禮。の。期。文化八年五月と定。り。し。り
を。其。年。の。初。め。各。對。州。へ。趣。く。此。時。對。馬。の。国。守。を
對。馬。守。義。功。が。嫡。男。よ。し。て。對。馬。守。義。實。と。稱。し。て
侍。從。た。り。此。時。義。實。生。年。十一。歳。官。年。八。十六。六
寺。内。に。客。館。を。建。來。聘。使。の。休。足。所。と。し。邸。居。を。修
補。し。聘。禮。執。行。の。所。と。し。専。ら。修。聘。の。儀。を。執。せ。り
かく。て。文化八年三月二十九日。午の刻。に。朝鮮の
正。使。通。政。大。夫。吏。曹。參。議。知。製。教。金。履。喬。字。公。世
号。ハ。竹。里。八。十。歳。副。使。通。訓。大。夫。弘。文。館。典。翰。知。製。教

無經筵侍読官春秋館編脩官李勉求字子餘号
も南霞^五等都合人数三百三十六人對州府中
湊へ着岸^{金山浦より}其日上陸^{府中国府寺の客}
館^八入^{守屋敷近十丁あり}四月九日正使副使上
官へ客館^は於て七五三の御料理^は御饗應有
同十一日^は上官中官同十三日^は軍官以下
下官へ御料理^を被^レ下同日正使副使爲御尋上使
脇坂中勢大輔安董^〇衣冠同二十二日對馬守
質^が邸^は於て聘礼の修儀あり上使と正副使相
會^{して}國王の書翰^且捧物等の請取渡あり^〇
是日上使以下大目付迄衣冠林家より御目付迄
大紋の直垂御儒者御右筆布衣席着座^〇上使上
段對馬守其外御目付迄下段御儒者御祐筆^〇上
使の後^の八人^〇對州家來の上^は着座^〇朝鮮^ハ兩
聘使上段上^〇官三人下段^は出座其外の官人^も
兩聘使の後^の入類對州家來の上^は着座國王昏

翰^も此方の上使と朝鮮兩使の前^は上官の者
持出大目付諸取之床^は置聘禮相濟持入時^ハ御
右筆兩人^はて之を役^も〇國王進物^ハ兼て聘礼
の間^西の張出^し並へ置兩使獻上物^も落縁^ハ
並へ置て役送の事^ハ同二十六日於^ハ朝鮮
人御饗應此日上使對馬守符衣大目付大紋其外
五三^〇四目五目折三合^〇御料理の品^も兩聘使^ハ七
官へ七五三^〇四目五目製述官^ハ兩判事書記以
上判事押物判事^ハ負寫字官^ハ画負軍官^ハ七五三
其外^ハ三汁十一菜^ハ下官以下^ハ強^ハ給事^ハ對州
家臣^ハ是を勤む素袍^ハ上^〇官以下^ハ長袴^ハ是を
勤む同二十八日小笠原大廳大夫旅宿^ハ禮曹并
兩使より音物^ハ上^〇官持參^ハ品物^ハ之^〇服^ハ君^ハ此^ハ事^ハ有^レ
同日夕方爲挨拶客館へ使者を遣^は同年六月朔
日信使へ爲御尋檜折杉組樽等被^レ下其日爲御礼

上：官。上使并ニ添上使旅宿へ罷越。同九日大膳
 大夫より正副使旅宿へ。時候見廻ミとして糟漬地
 一桶五十入。素麴一箱三十斤入遣ハ。同十一日信
 使ハ。兩度目御尋初日ハ。同十五日於對馬守
 邸國王へ御返翰御渡乃ハ。倭あり。着服着座等の事
 とて聘禮の日と同一。御返翰を御右筆役送ハ。
 大目付指添指圖と上。官是を請取。是日國王へ
 公方様。大納言様より。被遣物あり。又正副使以
 下へ并領物有之。御返翰被仰渡相濟て後。兩使
 へ被下物上使より申達。對馬守目録相渡と上。
 官以下も對馬守家老下段へ呼出。目録相渡と。
 家老布衣を着。是日朝鮮歸國御暇。上使より申
 達。同十六日大膳大夫より。礼曹へ白銀五十枚
 綿五十把。正副使へ。白銀五十枚。上。官三人へ白
 銀十五枚。客館へ使を以て遣ハ。有ハ。照取證を得ハ。此
 年表より。同十八日。上使以下の御役人乗船。同十

信使歸帆

朝鮮王書翰

同獻上物

九日對州湊出帆。同二十二日。朝鮮國より獻上の
 御馬一疋。御鷹十五居。其外の御品共乗船。同二
 十五日。朝鮮人歸帆。國王書翰。朝鮮國王奉書
 日本大君殿下。聘使之禮。曠喻四起。逃義殿下克
 讀洪緒。誼撫區域。休聞所及。欣聳曷已。茲俯岐常庸
 伸賀儀王於易地。行聘之事。寔出兩國。惇好之義也。
 不腆上宜。聊寓遠忱。惟冀益懋。令猷義膺。休祉不備。
 辛未正月日。朝鮮國王。國王王より。將軍家へ進
 獻の品。人參。大綸子。大綸子。大綸子。大綸子。大綸子。
 布。白綿。細。黑麻布。虎皮。豹皮。白草布。生草。
 魚皮。平張。色紙。彩花。席。各色。華。真墨。黃蜜。
 清蜜。扇子。駿馬。鞍具。大納言様へ。人參。
 大綸子。無紋。綾子。白草布。黑麻布。虎皮。
 豹皮。青。赤。皮。魚皮。色紙。各色。華。真墨。
 花硯。扇子。駿馬。鞍具。信使自分獻上物。
 將軍家より。大納言様へ。虎皮。豹皮。白草。

五十八

朝鮮王符領物

○文化八年九月二十八日。賜坂中務大輔安董朝鮮

使來聘御用相勤候爲御褒美御刀肥前國忠廣於

御前拜領同九年六月二日、照坂中務大輔朝鮮使來聘御用、積年出精儀爲相勤、并借金一

万五千兩、不及返納、此外小役人追、御用掛の面、黃金時

服白銀等賜之。

○同年十一月朔日、小笠原大膳大夫忠德、御鞍鐙并

領、同十二月二十五日、宗對馬守義功、白銀三百枚、

時服三十、御刀并領、來國負代千枚、同七月四日、宗對馬守義功、朝鮮使御用、積年

依爲相勤、當申年より二十箇年の間、毎年金子二千五百兩宛賜之旨、并寛政五年の并借一万石、文

化六年の并借金三万兩も、三十ヶ年賦り、返納可致旨。

○文化十年六月二十八日、阿蘭陀船長崎に着岸、小

象を獻じ、長崎奉行遠山左衛門尉 台命を傳へ

て、本国に指戻し。

渡船浦賀

○文政元年五月十三日、西洋諸尼利亞船、豆州浦賀

沖へ漂着、同十五日、浦賀奉行内藤外記正弘、役

所へ御暇被下。

○同二年正月十一日、伯州八橋郡赤崎浦へ、朝鮮商

客十二人漂着。

浦賀奉行
二人の始

○文政二年正月二十五日、筑紫佐土守浦賀奉行被
仰付、是より二人役と成る。

○文政三年二月二十八日、脇坂中勢大輔安董、朝鮮
御用、並に宗對馬守政令、積年補弼、依為勤勞、時服
六つ宛賜ふ。是より以來、朝鮮御用、及對馬守補
弼、相心得候は不及の旨、老中演達と。

獻駱駝

○文政四年七月二日、蘭船入津、駱駝二疋を獻じ

薩州異国
人狼藉

○文政七年七月八日、薩州寶島へ異国船漂着、鉄炮
を放ち、番所并に民家を狼藉と、領主より人数を
出に拒之、一人討取、餘黨逃去と。

遠州(支那)
船来船

○文政九年正月朔日、唐船遠州浦に漂着と、此内は
奥州南部家領の商船、神仙丸と、文政三年十一月
漂流し、シヤム国へ着船し、夫より唐土へ渡り、唐
土より五人を護送と。

○同年十一月二十九日、御書物奉行、天文方兼帶、高

魯国の書和解

作左衛門。魯西亞書籍和解校合に依て、白銀十五

枚賜之。

後天保元年三月二十六日、戊午、蘭人江戸参府中高橋作左衛門等十九人申合せ、不

輕品、蘭人「シヤ」と云者へ送候處、神凡に吹返され、船陸地はあげられ、歸帆を事と得、飯之崎陽官人の監察にあひ、国禁の品に露頭及び、右三月廿六日、嚴しき御咎仰付られぬ、委しく、三十八葉。○文政十二年十一月、於大坂表、切支丹宗の者六人、禁行、小記せり。

切支丹御仕置

松前家万石格

○天保二年十月二十九日、松前志摩守一万石格被仰付、是迄五年目参府に候得共、向後ハ二月御暇十月参府家族當地に可指置、其方参府中嫡

子有之節も代々御暇被下、嫡子無之節も、名代に相成候家老共指遣置、蝦夷地手當等可申付、三季獻上物万石以上の通可指出候。

○天保五年十二月二十七日、宗判馬守金一万両并

借被仰、去年朝鮮国、王城焼失、其上不作に付、交

易指滞、依爲難炭也。

朝鮮王城焼失
三付宗家難
炭金并借

○同六年十一月、此節於長崎、唐人共不取締に付、御

目付、戸川播磨守御徒目付二人、御小人目付四人、

唐人交易
御取締

罷越前、御定法有之、所相背唐物密賣其外乱法
より自、嚴敷御取締被仰渡。

伊豆島、巡見

○天保九年二月晦日、御代官羽倉外記、伊豆國島、
巡見、金二枚時服二羽織被下之。

○同年十月十七日、南部左衛門尉信真、蝦夷地へ人
數指向候様被仰達候以來、海岸筋固之儀、厚心
掛候段達、御聽依之格別之、思召を以城主格
被仰付。

琉球産物長崎
めて賣捌を
不許

下野国吹上
陣屋

○同十一年三月十一日、松平大隅守齊興、并借金被
仰付。於長崎表、琉球産物賣捌の爰より指支の筋
有之候より、指止候處、琉球國、救扶持等、手届
無候趣を以、右賣捌方有之度趣、再三被申立候へ
共、最前も申達候通於公義、不容易御指支の筋
有之候間、難相成事、候条可得其意候、乍然無程
琉球人召連、参府之折柄、彼是より可爲難儀と被
思召候より、別段の詔を以、三ヶ年の間、金五千兩
宛年、爲御手當被下候間、指支無之様可取計候。
○同年五月六日、有馬藩九領分上総国五井より、下
野国都賀郡吹上より轉して、新に陣屋を營む。
○同五月二十七日、長崎奉行へ御書付、紅毛人指出
候凡説書以

來ハ翻訳、元文相添可被指出候。○紅毛人持渡候各籍、當地より訛申遣候分、自分所持の各籍よりても相改候様可被致候。右取計方勘糸可被申聞候。通詞共通年心掛候而已、無之、各籍之上の取廻し出來候様可致出猪。天文方へ御付、翻訳之旨世話有之可然事、候。天文等を始め、宛珍各之類、其筋取致候品、曆書、医、天文等、を始、宛珍各之類、其筋取扱候者の外、櫻子世上一へ不致流布心得、取扱可申候。○蘭、唇心掛之、文化の度、相違候趣も有之候間、何れも始手附等、可心附、後とく存候へ共、年数相立候故、猶又申達候。係、翻訳も無指支様相励可申候。

天保十一年七月二十七日、奉行松平伊賀守阿部

伊勢守御勘定内藤隼人正、大目付土屋紀伊守、御目付

御生伊勢守水野永女、御勘定岡本忠次郎右面々

朝鮮人對州追來聘の節、御用掛被仰付、戊辰八月十二日

み至御達、朝鮮信使對州へ來聘の儀、文化の度ハ、全く新規の事、今般最早再度、無て模倣も相分居候、故、此節の取計、即永世の定法、可相成、後、肩、其心得を以、諸事念、入隨分簡易、取調可申候、且、御入費向も、可成丈、裁、候て、後、來惡弊無之様、可有、評、説、夏、○對州へ罷越候面、可成丈、人、少、可、有、相濟候、據、有、之、度、候、各、支、配へも、其心得を以、省、畧、之、後、厚、く、可、有、沙汰候。

同年十一月十五日、奥州仙臺へ、異国船漂着、無程下總

国へ轉着
もと云々

異国船の儀付
御書付

天保十三年七月二十六日 異国船の儀付御書

。六十四

付。○異国船渡來之節、無二念、打拂可申旨、文政八年被仰出候、然、外當時萬事御改正、ふて、享保寛政度之、御政事、被復、不寄、何事、御仁政、被復度との難有、思召、候、右、付、外国之者、難、凡、逢、漂流等、ふて、食物、薪水、を乞ふ、迄、渡來候、を不察、其事情、一、山、打拂候、て、被對、萬国、候、御所置共、不被、思、召、候、依、之、文化、三年、異国船渡來之節、販計方之、儀、付、被、仰出候、趣、相復、候、様、被、仰出候、間、異国と見、諸候、も、篤と、様、子、相、糾、候、食料薪水等、之、敷、歸、帆、難、成、趣、候、も、望、之、品、相、應、と、與一、歸、帆、可、致、旨、申、諭、尤、上、陸、を、爲、致、問、敷、候、條、此、通被、仰出、付、て、ハ、海岸、防禦、之、手、當、緩、せ、致、置、宜、敷、打、と、心得、違、又、ハ、根、よ、異、国、人、に、親、み、候、儀、致、問、敷、筋、に、付、警、衛、向、之、儀、と、亦、嚴、重、に、致、し、人、數、

并、武器、手、當、之、儀、也、是、迄、よ、一段、手、厚、く、聊、も、心、配、無、之、様、相、心得、可、申、候、若、異、国、船、よ、り、海岸の様子、を、伺、ひ、其、場、所、人、心、之、動、靜、を、試、候、爲、杯、の鉄、炮、を、打、掛、候、類、可、有、之、或、も、難、計、候、一、バ、夫、ら、の事、に、不、致、動、搖、渡、來、の、事、實、相、分、候、を、憐、恤、之、御主意、貫、き、候、様、取、計、可、申、候、され、共、彼、方、よ、り、乱、妨之、始、末、有、之、候、歟、望、の、品、与、一、候、共、不、致、歸、帆、及、異候、候、ハ、速、に、打、拂、臨、機、の、取、計、い、ハ、勿、論、の、事、に、候、備、向、之、手、當、ハ、猶、迫、而、相、違、候、次、第、も、可、有、之、候、○文化、三、寅、年、相、觸、候、趣、先、達、而、魯、西、亞、船、長、崎、一、渡來、い、し、通、商、之、儀、相、願、候、へ、共、難、相、用、筋、に、付、其旨、申、諭、先、年、与、一、置、候、信、牌、を、も、取、上、以、來、乗、渡、る間、敷、旨、堅、申、渡、爲、致、歸、帆、候、に、付、再、渡、ハ、致、問、敷、候へ、共、此、後、万、一、漂、流、に、事、寄、せ、乗、渡、る、何、れ、の、浦、方、に、船、を、繫、き、申、間、敷、と、の、ふ、無、之、候、間、異、国、船、と見、諸、候、ハ、早、に、致、手、當、人、數、指、配、見、分、の、者、指、出

篤と様子相糺、弥曾西亞船に、無相違相聞え候む。
能く申諭し成丈、穩に致歸帆候様、可被計候。尤實
に難凡に逢ひ、致漂流候様、子に、食物薪水等乞
敷、直に歸帆難相成次第候む。相應に其品相与
へ、可為致歸帆候。尤何程相願候共、不為致上陸歸
帆迄番船附置、見物等を禁し、其段早に可有注進
候。尤再應申諭候而も相拒、不致歸帆及異役候む。
應時宜不及伺打拂、其旨可被申聞候。右鉢の始末
小至候節、諸事寛政三年、異国船
之役、舟相觸候趣に准、取計可申候。

○天保十三年九月十八日御觸、異国船取計方之致、
今般被仰出候。就

△相違
走向若近海へ渡來候も、臨時警固并防禦被
仰付、其可有之候間、平常大砲等之用意、可被申付
置候。蛮夷之諸国、戰闘之仕組、和漢之制度といふ
付、利方之軍器別段用意も可有之候間、參勤之面

面其覚悟して、防禦之仕方、兼而心掛置可被申候。
併右に、參勤之節、是迄より、多人数、召連候。其
無用致し、江戸表有合之人數、而相心得候様、
可被致候。定府之者、ハ、當地重し、事ハ、別而右
之心得て、弥手厚く可被申付候。都而人数、并立
具等之取、無之書出、ハ、若只今迄、銘々手薄之致、
有之候共、御沙汰之筋、無之候間、可被得其意候。
○異国船渡來之節、防禦之役、今度別紙之通被
仰出候。右に付、領分ハ、海岸無之分、而も、寂寄へ
異国船渡來之節、ハ、兼而助勢之義被仰出無之
向へも、臨時警固并、防禦之利、器等大砲の類、分
限、應一製作致置、非常之備手厚く行届候様、可
被申付候。

長崎奉行
附与力
同心
始

○同年同月、長崎奉行附与力、同心十五、新規被